

<クロール試験紙Q&A>

Q. クロール試験紙はどのような反応原理なの？

A. クロール試験紙(0~10ppm、10~50ppm、0~100ppm、次亜塩素酸水)は、試験紙中の試薬と次亜塩素酸および次亜塩素酸イオンとの酸化還元反応を利用しています。クロール試験紙(25~200ppm)は、次亜塩素酸ナトリウムが水溶液中で加水分解を受け、アルカリ性を示すことを利用しています。

Q. 次亜塩素酸水の測定には、クロール試験紙(0~100ppm、次亜塩素酸水用)以外の試験紙は使えないの？

A. クロール試験紙10~50ppmであれば簡易判定に使用できます。なお、クロール試験紙(0~100ppm、次亜塩素酸水用)には測定項目にpHが付いているので、pHの影響確認も可能です。スティックタイプのためハンドリング性が良く、変色表との比較がしやすいので、次亜塩素酸水用の測定に適した試験紙となっております。

Q. クロール試験紙(0~100ppm、次亜塩素酸水用)とクロール試験紙10~50ppmの違いとは？

A. クロール試験紙10~50ppmは次亜塩素酸ナトリウム水溶液(アルカリ性)での判定を想定したものでした。クロール試験紙(0~100ppm、次亜塩素酸水用)は、中性域~弱酸性域でも判定しやすく調整しており、電解水やpH調整次亜塩素酸水といった次亜塩素酸水の測定に適した試験紙となっております。

Q. クロール試験紙(0~100ppm、次亜塩素酸水用)で強酸性電解水(pH2.7以下、有効塩素濃度20~60ppm)は測定できるの？

A. クロール試験紙(0~100ppm、次亜塩素酸水用)で強酸性電解水(pH2.7以下)の有効塩素濃度は測定可能です。しかし、pH測定範囲が4~8であるためpHは測定範囲外となってしまいます。

Q. ジクロロイソシアヌル酸ナトリウム水溶液には、どの試験紙を使えばいいの？

A. クロール試験紙(0~100ppm、次亜塩素酸水用)の使用をお勧めいたします。

その他ご不明な点がございましたら、
最寄りの営業所へお問合せください。

